

There is a great man who makes every man feel small. But the real great man is the man who makes every man feel great. The best men of the time were simply common men at their best. This is why our age can never understand Napoleon. Because he was something great and triumphant, we suppose that he must have been something extraordinary, something inhuman. Some say he was the Devil ; some say he was the Superman. Was he a very, very bad man? Was he a good man with some greater moral code? We strive in vain to invent the mysteries behind that immortal mask of brass. The modern world with all its subtleness will never guess his strange secret ; for his strange secret was that he was very like other people.

上記は、GK Chesterton による *Charles Dickens* からの引用であるが、ナポレオンでさえもごく普通の人であった、もっと言えばふつうの人であるがゆえに、という理解がないとナポレオンを理解できないという一文である。脳神経外科手術の達人であるだけでなく柔道の達人でもある永廣信治教授はいつもにこやかで優しい顔をされている。彼の後輩の山下泰裕氏はテレビなどで拝見する限り現役時代からいつも柔和な印象で、この人の表情から格闘技である柔道で12年間も勝ち続けたという事実を想像することは難しい。歴史上の偉大な人物を解釈する際に、われわれは往々にして偉大な人物はすべてに関して飛びぬけている、あるいは常軌を逸脱していると思いがちであり、そのような思い込みが人物の理解を難しくしているという。超人も自分たちと同じように喜び、悲しみ、苦しみ、悩み、根本は自分たちと同じなのだ、という理解のもとにわれわれも前に向かってゆくべきだと思う。それに加えて、永廣教授のエピソードにあるように、己の驕りをたしなめてくれる存在が身近にあるか否かと、その指摘を深く受け止められる感性をもっているか否かが、本物になれるか否かの分かれ目になると思う。

今月号も永廣教授の扉に加えて、廣瀬先生らの temozolomide に関する総説、西林先生らの頭頂葉の外科、福永先生らの医療過誤訴訟に関する解説、水野先生の translational research 連載など今知っておかなければならない内容が満載であり、日本脳神経外科学会はかくも多士済々という事実を再認識させられた次第である。